

岐阜県危機管理部作成

みんなで学ぶ 防災・減災
～清流の国ぎふ 防災ノート～

授業活用例集



令和4年度 岐阜県防災教育強化チーム

目次

○理科における活用例	1頁
小学校 『1・2・3年生用P15』 避難するとき持っていくもの	3頁
中学校 『中学生用P4』 岐阜県で大地震が起こるとどうなるの？	4頁
○社会における活用例	5頁
小学校 『1・2・3年生用P16, 17』 消防・警察・自衛隊のはたらき	7頁
小学校 『4・5・6年生用P2, 3』 ・地震はなぜ起こるの？ ・地震が起こると、どうなるの？	8頁
○家庭, 技術・家庭における活用例	9頁
小学校 『4・5・6年生用P11』 地震から命を守るには？ ～事前対策～	10頁
中学校 『中学生用P12, 20』 ・地震から命を守るには？ ～事前対策～ ・家庭での備え	11頁
○体育, 保健体育での活用例	12頁
小学校 『4・5・6年生用P3, 4, 11, 12』 地震から命を守るには？ ～発生時～	13頁
中学校 『中学生用P7, 10, 14, 20など』 家庭での備え	14頁

○特別の教科 道徳における活用例	15頁
小学校 『4・5・6年生用P20, 21』 関係機関のはたらき	17頁
小学校 『4・5・6年生用P10～16』 自分で考え, 行動しよう	18頁
小学校 『4・5・6年生用P19』 被災された方のお話	19頁
中学校 『中学生用P11～21』 自分で考え, 行動しよう ～地震から命を守るには～	20頁
○特別活動における活用例	21頁
小学校 『1・2・3年生用P1～13』 身の回りの危険を知ろう	22頁
小学校 『1・2・3年生用P7』 火山が噴火すると, どうなるの?	23頁
小学校 『4・5・6年生用P13, 14』 大雨から命を守るには? ～事前対策～ ～降雨時～	24頁
小学校 『4・5・6年生用P9, 15』 岐阜県ではどんな火山噴火が起こったの?	25頁
小学校 『4・5・6年生用P15』 火山噴火から命を守るには?	26頁
○総合的な学習の時間における活用例	27頁
小学校 『4・5・6年生用P16, 17』 災害後の生活はどうなるの?	28頁
小学校 『4・5・6年生用P9, 15』 岐阜県ではどんな火山噴火が起こったの?	29頁
中学校 『中学生用P12, 13』 自分の部屋は大丈夫?	30頁

理科

science

学年	単元等	活用方法
小学校 第3学年	「光と音の性質」	<ul style="list-style-type: none"> ・虫眼鏡で日光を集めて、明るさや温度が変わることを学習する。日光を集めて火を起こせることが、災害時に役立つことに気付く。「他に災害時にあるとよい物は何か」について『小学校1・2・3年生用P15』の「非常用持ち出し袋」の中身を話題にして話し合う。また、家庭に非常用持ち出し袋があるか、中身に何が入っているのかを確認する。
小学校 第4学年	「雨水の行方と地面の様子」	<ul style="list-style-type: none"> ・雨水が高いところから低いところへ流れ、集まってたまることや土や砂の粒の大きさによって水のしみ込み方が違うことを学習する。その後、『小学校4・5・6年生用のP13』を参照し、水害の危険な箇所を示すものとしてハザードマップがあることを学ぶ。また、自分たちが住む地域のハザードマップを見て、危険箇所の確認をする。
小学校 第5学年	「天気の変化」	<ul style="list-style-type: none"> ・気象災害から身を守るためには、気象情報を効果的に活用することが大切であることを学ぶ。その後、『小学校4・5・6年生用のP14』を参照し、災害時に「避難してください。」という情報が発信された際の命を守るための避難について学ぶ。
小学校 第5学年	「天気の変化」	<ul style="list-style-type: none"> ・台風の強風や大雨によってどのような災害が起きるかを考え、話し合う際、県内の身近に起こった災害について知るために、『小学校4・5・6年生用のP6～8』を参照する。 ・大雨等の災害から身を守るために私たちにできることを考え、話し合う際、降雨時の対策について知るために、『小学校4・5・6年生用のP13, 14』を参照する。
小学校 第6学年	「土地のつくりと変化」	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに起きた地震や火山の記録を調べるために『小学校4・5・6年生用のP4, 9』を参照する。 ・岐阜県で起こった地震や火山の噴火以外の災害を知る（確認する）ために『小学校4・5・6年生用のP7』を参照する。 ・様々な災害から生命を守るために何ができるか考える際、『小学校4・5・6年生用のP10～19』を参照する。 ・災害時の関係機関のはたらきを学ぶために『小学校4・5・6年生用のP20, 21』を参照する。
小学校 第6学年	「生物と環境」	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の変化によって受ける影響を小さくするために人々がどのような取組をしているか調べる際、『小学校4・5・6年生用のP10～19』を参照する。

中学校 第1学年	「大地の成り立ちと変化」	・火山からどのような恵みや災害を受けているか考えたり、火山が噴火した時どのように行動するか話し合ったりする際、『中学生用のP9, 10, P19~21』を参照する。
中学校 第1学年	「大地の成り立ちと変化」	・地震が起こる仕組みについて学習する際、『中学生用のP2, 3』を参照する。
中学校 第1学年	「大地の成り立ちと変化」	・地震によって起こる現象について学習する際、『中学生用のP4』を参照する。 ・地震への備えについて学習する際、『中学生用のP11~14』を参照する。
中学校 第2学年	「気象とその変化」	・日本の天気や台風について学習する際、『中学生用のP5』を参照する。
中学校 第2学年	「気象とその変化」	・気象災害がもたらす恵みと災害について学習する際、『中学生用のP6~8, P14~18, P20~21』を参照する。
中学校 第3学年	「科学技術と人間」	・地域の自然災害について学習する際、『中学生用の全ページ』を参照する。

- (1) ねらい 虫眼鏡で集めた日光が当たったところの明るさやあたたかさを調べる実験を通して、日光を集めたところを小さくするほど、明るくなったり、紙を焦がしたりすること気付き、鏡ではね返した日光を重ねたときよりも日光が当たったところが明るく、あたたかく（熱く）なることを理解することができる。
- (2) 評価規準 虫眼鏡を用いることで日光を集めることができ、集めた日光が当たったところは明るく、あたたかく（熱く）なることを理解している。【知識・技能】
- (3) 学習展開 (4/4)

過程	学習活動 (◆は、「みんなで学ぶ防災・減災(防災ノート)」を活用する場面を示している。)
導入	1 前時の実験から問題を見いだす。 ○はね返した日光をもっと重ねたら、明るさやあたたかさ（温度）はどう変わるかな。 ・明るさは、まぶしくなるくらいもっと明るくなると思う。 ・温度は、物が燃えるくらい高くなるかもしれないな。
展開	○虫眼鏡は、日光を集めることができるよ。 【問題】虫眼鏡を使って日光を集めると、明るさや温度はどう変わるのだろうか。 2 実験を行う。(晴天の日に行うとよい。) ※安全指導を徹底する。(長い時間見つめない。身体や服に当てない。など) ○黒色の紙に虫眼鏡を使って、集めた日光を当てます。 ○光の円の部分を小さくすると、より光を集めることができるよ。
	3 結果をまとめ、考察を行う。 ・ずっと見られないくらいに、すごくまぶしかったよ。だから明るさは前の時よりも明るい。 ・紙から煙が出て、穴が開いてしまったよ。紙が焦げている。穴が開くくらい、熱くて、高い温度だったと思う。
まとめ	4 本時の授業をまとめる。 【虫眼鏡を使って日光を集めると、はね返した日光を重ねた時よりも明るく、あたたかく（熱く）なる。】 5 学んだことを生活につなげる。 ○「ソーラーライター」という道具があって、日光で火をつけることができるよ。 ・災害やキャンプの時に、火がなくても過ごせるね。 ・ツナ缶ランプは、太陽の光で火をつけば、明かりとしても、空き缶コンロとして使えるし、非常食にもなるね。 ◆非常用持ち出し袋について家族と話したことはありますか。 ○非常用持ち出し袋には、どんな物を備えておくとういかな。 ・お腹が空くから食料は絶対に必要だし、トイレは我慢ができないから必要だな。
	○ (防災ノートを活用する時の) 教師の指導のポイント 災害によって、道路が寸断したり、電気や水道などのライフラインが途絶えたりすることがあることを伝え、生活するために何があるとよいかイメージできるようにする。また、震災時の状況について(異臭があったなど)も伝える。
	○ 防災ノートの活用により、こんな子どもたちの姿が生まれました！(期待される効果) ・「非常食を普段から準備しておくとうい。」や「火を起こすライターなどを準備しておくとうい。」など、具体的な対策を考えることができた。さらに、実際の震災時に食料が不足したことやトイレが無いことに困った事実を伝えたことで、「非常食、非常用トイレなどは、たくさん準備しておく必要があるね。」と、さらなる対策を考える姿が生まれ、災害時の対応について理解を深めることができた。
	○ 児童の感想(防災ノート活用に関わって) 「家で非常用持ち出し袋のことを話してみました。家にもあったけど、入っているものが少なかったです。もっと非常食を入れておかないと足りなくなると思いました。」などの意見があり、家庭と連携した学習になった。



岐阜県で大地震が起こるとどうなるの？

中学校 第1学年 理科 「大地の成り立ちと変化」

- (1) ねらい 液状化現象のモデル実験と浦安市の地形を関係付けて考えることを通して、浦安市が海の近くに位置していることに気づき、浦安市のように、地中の水分量が多い土地ほど液状化現象が起こりやすいことを見いだすことができる。
- (2) 評価規準 液状化現象のモデル実験と浦安市の地形を関係付けて、浦安市で液状化現象が起こった理由を説明している。【思考・判断・表現】
- (3) 学習展開 (13/15)

過程	学習活動 (◆は、「みんなで学ぶ防災・減災(防災ノート)」を活用する場面を示している。)
導入	1 東日本大震災の際に浦安市で起こった液状化現象のようすを動画で視聴する。 ・地面が割れて、水がふき出しているぞ。 ・どうして液状化現象が起こるのだろうか。
展開	課題 なぜ浦安市で液状化現象が起こったのだろうか。
	2 液状化現象のモデル実験を行う。 3 結果をまとめる。 ・容器を振動させると、地面からだんだん水が出てきた。 ・ミニカーが少しずつ地面の中に沈んでいくのが分かった。 ◆防災ノートを活用して、液状化現象が起こる仕組みを学ぶ。
まとめ	4 地図アプリを活用して、浦安市の地形を調べ、液状化現象が起こった理由を考える。 ・浦安市は海のすぐそばに位置している。モデル実験の結果から、地面の中に水がたくさん含まれていると液状化現象が起こることが分かる。このことから、浦安市で液状化現象が起こったのは、海の近くに位置しているため、地面の中にたくさん水が含まれているからではないか。 ・浦安市の海岸線が直線であることから、浦安市の大半は埋め立て地ではないか。もともと海だったところを埋め立てているので、地面の中には水がたくさん含まれているはずだ。 5 本時の授業をまとめる。 ・浦安市で液状化現象が起こったのは、浦安市は海の近くに位置し、埋め立て地が大半を占めることから、地面の中にはたくさんの水が含まれており、地震によってその水がふき上がったからだと考えられる。



○ (防災ノートを活用する時の) 教師の指導のポイント

学習指導要領解説には「水を含んだ砂層では液状化現象が起こることについて触れることも考えられる。」と記載されており、その仕組みを詳しく説明する必要はない。しかし、本時の課題を解決するためには、地面の中にたくさんの水が含まれていることを見いださせる必要があるため、モデル実験や防災ノートを活用して液状化現象が起こる仕組みを学んだり、地図アプリなど活用して地形と関係付けて考えたりすることで、ねらいに到達できるようにする。

○ 防災ノートの活用により、こんな子どもたちの姿が生まれました！(期待される効果)

- ・液状化現象の仕組みについて考えることで、自然災害に対する理解が深まった。
- ・自分が住んでいる地域の危険性について考えることで、自然災害に対する危機意識が高まるとともに、将来の自分の生き方につなげることができた。

○ 生徒の感想(防災ノート活用に関わって)

液状化現象の仕組みは、教科書には載っていなかったため、防災ノートのイラストやタブレットで調べたことを基に、その仕組みと浦安市で液状化現象が起こった理由を考えることができた。岐阜県には海がないので、液状化現象が起こらないと思っていたけれど、長良川などの大きな川があるので、川の近くでは液状化現象が起こる可能性もあると思う。将来、液状化現象などの災害が起こる可能性を踏まえて住む(家を建てる)場所を考えるとともに、日頃から災害への備えをしていきたい。

社会

social studies

学年	単元等	活用方法
小学校 第3学年	「火事からくらしを守る」	<ul style="list-style-type: none"> ・消防や警察は、火災や事故・事件だけでなく、災害時も私たちに助けてくれることを理解するために、『低学年用のP16, 17』を参照する。 ・消防士や警察官等の働きを実感的に捉えるために、『低学年用のP16, 17』に示されている資料を基に考えたり、紹介してあるホームページを各自で調べたりする。
	「火事からくらしを守る」	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々で構成されている消防団及び水防団は、消防士等と連携して私たちに助けてくれることを理解するために、『低学年用のP16, 17』を参照する。 ・消防団等の働きを実感的に捉えるために、『低学年用P16, 17』に示されている資料を基に考えたり、紹介してあるホームページを各自で調べたりする。
小学校 第4学年	「自然災害からくらしを守る」	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入で問題意識をもったり、単元の学習計画を立てたりするために、『高学年用のP2～8』を参照する。
	「自然災害からくらしを守る」	<ul style="list-style-type: none"> ・地震等から身を守る際に、家庭でどのような取組をしているのか、今後どのような取組が必要なのかを考えるために、『高学年用のP11』を参照する。 ・『高学年用のP11』を使い、自分の家庭での地震等の対策について記入し、仲間と交流する。
	「自然災害からくらしを守る」	<ul style="list-style-type: none"> ・地震等から身を守る際に、学校や通学路でどのような取組をしているのかを理解するために、『高学年用のP12』を参照する。 ・『高学年用のP12』を使い、自分の学校や通学路での地震等の対策や危険場所等について記入し、仲間と交流する。
	「自然災害からくらしを守る」	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村の行政や住民はどんな取組をしているのかを理解するために、『高学年用のP13』を参照する。また、自分の地域のハザードマップを確認し、『高学年用のP14』を基にして地域の危険箇所や避難経路等について考え、交流する。
	「自然災害からくらしを守る」	<ul style="list-style-type: none"> ・地震等の災害が起きた時に、どのようなことをすれば（大切にすれば）よいかを考えるために、『高学年用のP16～19』を参照する。

<p>小学校 第5学年</p>	<p>「自然災害を防ぐ」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地震の被害やメカニズムについての理解するために、『高学年用のP 2, 3』を参照する。 ・岐阜県で起こった地震について理解するために、『高学年用のP 4』に示されている資料を基に考える。 ・水害の被害やメカニズムについての理解するために、『高学年用のP 5, 6』を参照する。 ・岐阜県で起こった地震について理解するために、『高学年用のP 7, 8』に示されている資料を基に考える。
<p>小学校 第6学年</p>	<p>「東日本大震災への緊急対応」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害が起きた時に、関係諸機関は連携してどのような取組をしていくのかについて理解するために、『高学年用のP 20, 21』を参照する。
	<p>「変化の中の日本」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県内でも地震による災害があったことを理解するために、『高学年用のP 4』を参照する。
<p>中学校 第2学年</p>	<p>地理的分野 「自然災害と防災への取組」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・被災地への様々な支援について理解し、防災対策及び防災意識を高めるために、「中学生用のP 21～27」を参照する。 ・学習を基に自分は何ができるのか、どうしていくのかを学活等を通じて自分事として考える。(教科等横断的な学習)

小学校
1・2・3年生用
PI6,PI7

消防・警察・自衛隊のはたらき

小学校 第3学年 社会 「火事からくらしを守る」

- (1) ねらい ・119番通報があつてから、5分以内に現場に着くことができるのは、消防本部から最も近い消防署に連絡したり、消防隊員が早く出発できるように訓練をしたりしているためであることが分かる。
- (2) 評価規準 ・消防隊員の努力や消防署と関係機関との連携・協力があつて、早く到着できる仕組みがあることを理解している。【知識・技能】
- (3) 学習展開 (4/7)

過程	学習活動 (◆は、「みんなで学ぶ防災・減災(防災ノート)」を活用する場面を示している。)
導入	<p>1 火事が起きた際、通報から到着までの時間を見て、気付いたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通報から5分で現場に到着しているよ。5分で到着できるなんてすごいな。 ・話を聞くと基本的に大垣市内のどこでも、5分以内に到着することができているんだ。
	<p>課題 119番通報を受けてから、どのようにして5分以内で現場に到着しているのだろう。</p>
展開	<p>2 予想を交流し、追究の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火事が起きたらすぐに出動できるように消防隊員は毎日訓練をしていると思うな。 ・火事が起きたという連絡がすぐに消防署に伝わるようになっているんじゃないかな。 <p>3 資料から調べ、考えたことを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・119番通報すると、消防本部(通信指令室)に連絡が行く。そこから素早く、一番近い消防署や消火に必要な施設に連絡が行き、みんなで協力して火を消している。 ・消防隊員はいつでも出動できるように準備をしている。見学に行った時も、すぐに防火服を着られるように壁際に服や持ち物が整理してあつた。 ・見学では、隊員さんの訓練の様子を見せてもらった。着替えて消防車に乗る訓練をしていたけれどとても速かつた。
まとめ	<p>4 消防隊員の話聞いて学習をまとめ、様々な人々の役割について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・119番に通報すると通信指令室に連絡され、消防署などに一気に伝えられ、協力して火を消している。また、消防隊員は素早く出動できるように様々な工夫や努力をしている。 ◆災害が起きたら現場に出動し、消火や救助を行うなど、災害が起きた時も様々な人々が協力していることを知る。
	<p>○ (防災ノートを活用する時の) 教師の指導のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「消防士が出動するのは火事の時だけなのか。」と問い、火事が起きていなくても、災害が起きれば救助や捜索に向かい、いろいろな人や機関と協力するという見通しをもてるようにする。
	<p>○ 防災ノートの活用により、こんな子どもたちの姿が生まれました！(期待される効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防士は、火事だけでなく、水害や地震などの災害時でも出動するということが分かり、様々な災害時に人命救助のために努力していることについての理解を確かなものにすることができた。 ・災害が起きると、消防だけでなく、警察や自衛隊も出動することが分かり、それぞれの関係諸機関が協力し合つて救助活動を行っていることで、自分たちの命を守ってくれていることへの認識を深めることができた。
	<p>○ 児童の感想(防災ノート活用に関わつて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防は災害が起きても出動する。テレビで見たことがあるけど、火事が起きていなくても救助を手伝っていた。災害が起きた時もみんなで協力していることが分かつたから、3年生なりにできることを見つけて自分から動きたい。 ・地域の命を守る訓練でも、消防の人や地域の防災士さんが来て、身の守り方や避難するときに気を付けることなどを教えてくれた。災害の時も消防隊員は頑張ってくれていると分かつたから、いざという時は、自分も頑張りたい。



地震はなぜ起こるの？

地震が起こると、どうなるの？

小学校 第4学年 社会

「自然災害からくらしを守る ～地震からくらしを守る～」

- (1) ねらい ・地震発生のメカニズムや地震・津波被害の様子を調べることを通して、自分たちの防災・減災の取組の現状に関心を持ち、自分たちにできることについて考えようとするができる。
- (2) 評価規準 ・地震発生のメカニズムや、過去に発生した地域の自然災害などに着目して、問いを見だし、災害から人々を守る活動について考え、自分たちにできることを考えようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 学習展開 (1/7)

過程	学習活動 (◆は、「みんなで学ぶ防災・減災(防災ノート)」を活用する場面を示している。)
導入	1 地震の起こり方と被害について話し合う。
展開	<p>課題 地震はどのようにして起こり、どのような被害があるのだろうか。</p> <p>2 地震の起こり方について調べる。</p> <p>◆「海溝型」と「断層型」の2種類の地震の起こり方について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 海溝型は海底で、断層型は内陸でも起こる。 岐阜県は断層型に注意が必要だ。
まとめ	<p>3 地震の被害について調べる。</p> <p>◆土砂崩れや地割れ、交通インフラの寸断などだけでなく、自分たちの身近なところでの被害についても確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 停電やガスの停止、家具等の倒壊や散乱などに注意が必要だ。 大きな地震が来ると、復旧だけでも長い時間がかかりそうだから大変だ。 <p>4 地震が起こった時、自分たちの地域で起こりやすい災害について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 山やがけが多いから、土砂崩れに注意が必要だ。 川を渡る時に使う橋が落ちるかもしれない。 津波が川をさかのぼってくるかもしれないから、覚えておきたい。 <p>5 地震やその被害に対して、自分たちにできそうな対策について考えるという見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分や家族にできそうなことがあれば、被害を少しでも減らすことができるかもしれない。
<p>○ (防災ノートを活用する時の) 教師の指導のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 岐阜県は、海溝型の地震の震源域からは離れていて、津波の被害も少ないことが予想されるが、活断層が多くあることや、濃尾地震のように過去に大きな被害になった地震が起きていることを伝え、地震を自分にも関係のあることとして捉えられるようにする。 地震の被害について調べる中で、岐阜県は大きな河川があるため津波による被害は出にくいと考えられるが、津波やその被害について学習する必要性について確認し、津波被害についても調べられるようにする。 防災ノートに書かれている内容を基に、疑問やさらに調べたいことを表出できた児童を価値付ける。 	
<p>○ 防災ノートの活用により、こんな子どもたちの姿が生まれました！(期待される効果)</p> <p>岐阜県の事例を取り扱うことで、「地震」が岐阜県に住む自分にも深く関わりのあることだと認識することができた。地震の起こる原因や岐阜県内での被害についての理解が深まったことにより、危機意識も高まり、地震による被害を防いだり減らしたりするために、自分にできることを考えるようになった。</p>	
<p>○ 児童の感想(防災ノート活用に関わって)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震の起こり方には海溝型と活断層型の2つがあることが分かった。また、岐阜県には活断層がたくさんあり、大きな地震がいつ起こってもおかしくないの、自分のできることを家族と相談してみたい。 地震が起こると、建物が壊れたり土砂崩れが発生したりと、たくさんの被害が考えられることが分かった。岐阜県には海はないけれど、海に遊びに行くことはあるから、津波についても知っておく必要があると思う。他にも、車で移動中に地震が起きた時にはどうしたらよいかについて詳しく調べていきたい。 	



家庭，技術・家庭（家庭分野） *home economics*

学年	単元等	活用方法
小学校 第5学年	「物を生かして住みやすく」	<ul style="list-style-type: none"> ・「物を生かして住みやすく」ステップ2「身の回りをきれいにしよう」（東京書籍P52,53）について学習する際に「日々の備え」（東京書籍P52）について確認する。その際、『高学年用P11』を参考に，防災教育の視点から理解を深める。
中学校	3編「私たちの住生活」	<ul style="list-style-type: none"> ・「私たちの住生活」における「5. 災害への対策」の学習において，住生活における災害への対策を具体的に話し合う活動や，住まいの中の危険な個所を探す（東京書籍P175の「活動」）活動の際に『中学校用P12』を参照する。 ・自分の生活と関わらせ，各家庭での災害に対する備えを探したり，家庭実践として各自が対策したりする際に，『中学校用P20』を参照する。

地震から命を守るには？ ～事前対策～

小学校 第5学年 家庭 B 衣食住の生活 「物を生かして住みやすく」

- (1) ねらい 引き出しの中を整理・整頓する活動を通して、整理・整頓や掃除の必要性が分かり、それらの適切な仕方を理解することができる。
- (2) 評価規準 住まいの整理・整頓や掃除の仕方を理解している。【知識・技能】
- (3) 学習展開 (2/7)

過程	学習活動 (◆は、「みんなで学ぶ防災・減災(防災ノート)」を活用する場面を示している。)
導入	1 引き出しの写真を見て、整理・整頓の必要性を知る。 課題 使いやすく、取り出しやすい安全な整理・整頓の仕方を考えよう。
展開	2 整理・整頓の手順を知る。 ・各自、整理・整頓前の引き出しの写真を撮る。 ・必要なものと必要でないものを分ける。(整理) ・使用頻度、使う目的、大きさや形、重さ、色などで分類し、置き場所を決める。(整頓)
まとめ	3 整理・整頓をして気付いたことを、「これからの生活や物の選び方、使いやすい状態が続けるために」といった点で考える。 4 「日々の備え」のポイントから、整理・整頓は防災にもつながることを確認する。 ◆ P11の「地震から命を守るには？～事前対策～」から、自然災害時に役立つ整理・整頓の仕方を 知る。 5 まとめる。 ・地震が起こった時に物が落ちてこないように、重い物は下の方に置くとよいことが分かった。 ・戸の開け閉めができるように、戸の付近は特に整理・整頓が必要であると知った。 ・非常用持ち出し袋はすぐに持ち出せるように、決まった場所に置くとよいことが分かった。
家庭実践	【家庭学習】家庭において自然災害時に役立つ整理・整頓の仕方を確認する。
○ (防災ノートを活用する時の) 教師の指導のポイント	
<ul style="list-style-type: none"> ・ P11「地震から命を守るには？～事前対策～」を利用するときは、自分の家と比べて、同じような危険がないか考えられるようにする。 ・ 家庭における実践を促す際は、児童の家庭環境に配慮した上で、防災についての備えについて家族と一緒に確認するよう働きかける。 	
○ 防災ノートの活用により、こんな子どもたちの姿が生まれました！(期待される効果)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ P11「地震から命を守るには？～事前対策～」には、具体的な対策がいくつか取り上げられており、各家庭で日頃から意識されていたり、取り組んだりしているかどうかを確認することができた。その結果、事前対策として不十分な部分については、事前に備えたり、意識をしたりしていなければならないという意識を高めることができた。 	
○ 児童の感想(防災ノート活用に関わって)	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 部屋の中は、ごちゃごちゃと物を置かない方がいい。戸やドアが開かなくならないように気を付ける。 ○ 万が一のことを考えて、災害時に持ち出す必要のあるような大切な物はまとめて保管するとよい。 ○ 物だけではなく、家具の位置も大切だと思った。ドアの付近に物を置くと逃げるができなくなってしまうから、もう一度、自分の部屋の家具の位置を確認したい。 ○ 本棚や収納ボックスを使って、整理・整頓する時は、重い物を下にしまうことが大切だと思った。入れる物や場所によって、それが倒れやすくなったり、落ちたりした時に危ないから気を付けたい。 	

・地震から命を守るには？ ～事前対策～

・家庭での備え

中学校 第2学年 技術・家庭(家庭分野)

「私たちの住生活」 災害への対策

- (1) ねらい 家庭における災害対策を考える活動を通して、災害に備えて家具を固定したり、配置を工夫したりするなど、具体的な方法について理解することができる。
- (2) 評価規準 家庭や地域における災害被害を防ぐための具体的な方法について理解している。【知識・技能】
- (3) 学習展開 (4/5)

過程	学習活動 (◆は、「みんなで学ぶ防災・減災(防災ノート)」を活用する場面を示している。)
導入	<p>1 災害における被害の資料から気付いたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震が起きた場合、家具の下敷きになってけがをしたり、亡くなったりすることが多い。 ・地震の被害は思っていた以上に大きいな。 ・自分の家も冷蔵庫が倒れてきたら、危ないな。 ・ガラスの飛び散り防止のフィルムは貼ってないから、危険だな。 <p>◆ P12「地震から命を守るには？」から、どんな場所が危険で、どんな被害が起きそうかについて、自分の家と比べながら考える。</p>
展開	<p>課題 災害による被害を防ぐには、どのようにすればよいだろうか。</p> <p>2 資料や自分の経験をもとに、どんな対策が必要であるかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家具を固定するにも色々な方法があるのだな。 ・家具が倒れて出入り口をふさいで避難できないことがあるのだな。 <p>3 自分の家にあった災害対策を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タンスがもし倒れても大丈夫なように、寝ている場所を避けて配置したい。 <p>4 家庭での備えについて見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家にある飲料水の量を調べてみたけど、1人1日3Lも準備していなかったら準備したい。 ・自分用の防災リュックを準備する必要があるな。 <p>◆ P20「家庭での備え」から、自分の家で準備できているものを確認する。</p>
まとめ	<p>5 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害対策は難しいと思っていたけれど、自分でもできそうなことがいくつかあることが分かった。本棚の位置を変えて、寝ている場所を安全にしたい。また、防災リュックの中身を確認しておくようにしたい。
<p>○ (防災ノートを活用する時の) 教師の指導のポイント</p> <p>P12の「地震から命を守るには？～事前対策～」を使用するときには、自分の家の写真と比べて同じように危険なところがないかを考えられるようにする。</p> <p>P20の「家庭での備え」を使用するときにも、家で調査してきた災害のために準備している物と照らし合わせて足りない物を考えられるようにする。</p>	
<p>○ 防災ノートの活用により、こんな子どもたちの姿が生まれました！(期待される効果)</p> <p>ただ知るだけでなく、自分の家の状況と比べることができると、災害対策を身近なことに感じることができ、家族に任せていたところを自分から家族に提案してみようとする意欲をもつことができた。</p>	
<p>○ 生徒の感想(防災ノート活用に関わって)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害による被害を防ぐためには、家の棚の位置を変えたり、本棚の中身の配置を変えたりする簡単な事で対策することができることが分かった。また、被災した後の準備も大切だと分かった。 ・自分の家を見直して見ると、防災ノートにあったようにテレビをチェーンで止めていないから倒れたら危険だと感じた。転倒防止マットならすぐに準備できそうだから、家に帰ったら転倒防止マットを敷くことを提案したい。 	

体育，保健体育 *Health and Physical Education*

学年	単元等	活用方法
小学校 第3学年	「健康な生活」 (ウ) 1日の生活の仕方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の生活における「健康」「清潔」の重要性を理解した後，発展として非常用持ち出し袋に入れるべき，避難後に「清潔」を保つために必要最低限の物を考え，理解を深めるために『低学年用のP15』を参照する。
小学校 第5学年	「けがの防止」 (ア) 交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがとその防止	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域でのけがの防止を考え，危険予測及び的確な判断について学んだ後，地震により地域の環境が変化した場合における危険予測や日常的に意識しておくことよい予防について『高学年用のP3』からイメージを膨らませる。 ・ 教室にいるとき，家の中にいるとき，街の中にいるとき，寝ているときなど様々な場面を示して，自然災害が発生した際の安全な身の守り方を『高学年用のP11，12』を参照にして，具体的に考えるように指導する。
小学校 第6学年	「病気の予防」 (イ) 病原体が主な要因となって起こる病気 (オ) 地域の様々な保健活動の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日頃の生活を振り返り，自分でできる感染症予防をまとめた後，発展として避難所での感染予防について考える際に『高学年用のP17』を参照する。 ・ 病気の予防のための各機関の働きを学習後，災害時も同様に人々の生命を守るための「はたらき」があることを知るために，『高学年用のP20，21』を参照する。
中学校 第2学年	「傷害の防止」 (ウ) 自然災害による傷害の防止	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然災害による街の変容や災害の種類による状況の違いなどを写真等によりイメージを深めるために『中学生用P1，11，12』を参照する。 ・ 自然災害による被害をより身近に考える機会として，家具の転倒やガラスの飛散について『中学生用のP12』を参照する。 ・ 自然災害による被害を防止するためには，正しい災害情報を把握し，的確な判断から安全に行動することが重要であることを理解するとともに，そのための日頃からの備えについて考えるために『中学生用P20』を参照する。

小学校
4・5・6年生用
P3, 4, 11, 12

地震から命を守るには？ ～発生時～

小学校 第5学年 体育(保健領域)

けがの防止(ア)交通事故や身の回りの生活の危険が
原因となって起こるけがとその防止

- (1) ねらい 自然災害によるけがを防止するには、周囲の危険に気付くこと、的確な判断の下に安全に行動すること、環境を安全に整えることや日頃の備えなどが必要であることを理解することができる。
- (2) 評価規準 学校や地域でけがを防ぐためには、どうすればよいのか理解している。(知識・技能)
- (3) 学習展開 (1/1)

過程	学習活動 (◆は、「みんなで学ぶ防災・減災(防災ノート)」を活用する場面を示している。)			
導入	1 地震や大雨による災害には、どんなものがあるのか考える。 ◆P3, 4を見て、大きな地震が起きたときの町の様子や家の中の様子を知る。また、過去に同じ岐阜県で起きた地震による被害を知る。			
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 課題 自然災害が起きた時に、安全な行動をするためには、どうするとよいのだろう。 </div> 2 地震によるけがは、どのようにして防いだらよいのかを考える。(デジタル教科書使用) <table style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td style="font-size: 3em; vertical-align: middle;">}</td> <td style="padding-left: 10px;"> ・教室にいるとき ・外を歩いているとき ・海の近くにいますとき </td> <td style="padding-left: 10px;">それぞれの場面でどのように防ぐのかを考える。</td> </tr> </table> 3 地震発生時、どんな危険が潜んでいるのか、また、どんな対策をすることでその危険を回避することができるのかを考える。 ◆P12の4つの場面を活用し、潜んでいる危険を「人の行動」「環境」から考える。 ◆P11を見て、日頃から事前に備えておくことよいことを確認する。 <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div>	}	・教室にいるとき ・外を歩いているとき ・海の近くにいますとき	それぞれの場面でどのように防ぐのかを考える。
}	・教室にいるとき ・外を歩いているとき ・海の近くにいますとき	それぞれの場面でどのように防ぐのかを考える。		
まとめ	4 学習のまとめ ・地震などの自然災害が起こった時には、状況を的確に判断し、落ち着いて、すばやく自分の身を守る行動をとることが重要であることを確認する。			

○ (防災ノートを活用する時の) 教師の指導のポイント

・教室にいるとき、家の中にいるとき、街の中にいるとき、寝ているときなど様々な場面を示して、自然災害が発生した際の安全な身の守り方を具体的に考えるように投げかける。

○ 防災ノートの活用により、こんな子どもたちの姿が生まれました！ (期待される効果)

・様々な場面を提示することにより、具体的に身を守る方法を考えることができた。
・大きな自然災害を経験したことのない児童にとって、同じ岐阜県で起きた災害の写真を見たことで、自分事としてとらえるきっかけとなった。

○ 児童の感想 (防災ノート活用に関わって)

・「斜面の近く」など、自分ではどうやって身を守ればよいか迷う場面があった。みんなで話し合いができてよかった。

中学校
中学生用

P7, 10, 14, 20など

家庭での備え

中学校 第2学年 保健体育(保健分野)
傷害の防止 (ウ) 自然災害による傷害の防止

- (1) ねらい 自然災害による被害を防止するためには、正しい災害情報を把握し、的確な判断から安全に行動することが重要であることが分かり、そのための日頃からの備えについて考えることができる。
- (2) 評価規準 自然災害に対する備えやその防止方法、具体的な方策について考えている。【思考・判断・表現】
- (3) 学習展開 (5/9)

過程	学習活動 (◆は、「みんなで学ぶ防災・減災(防災ノート)」を活用する場面を示している。)
導入	1 日本や岐阜県の自然災害について知り、今、自分が行っている災害への備えについて確認する。
展開	◆防災ノートを活用し、岐阜県で起こった風水害や火山災害について触れる。(防災ノートP7, 10)
	課題 自然災害による被害を最小限に抑えるためには、どのようなことが必要だろうか。
まとめ	2 自然災害の被害や傷害の原因についてまとめる。 ・建物の倒壊, 家具の転倒, 器物の落下→一次災害(障害の原因) ・地震に伴って起きる津波, 土砂崩れ, 地割れ, 火災→二次災害(被害の拡大)
	3 自然災害への備えと発生時の行動について考える。 ・現在, 家庭で行っている災害の備えについて想起する場面を位置付ける。また, グループで交流し, 各家庭での災害への備えについて知る機会をつくる。 ◆防災ノートP20の「備えが必要なもの」を活用し, 交流した備えの過不足などについて確認する。  写真 ハザードマップを見る生徒 ・発生時には…身の安全と避難経路の確保, 緊急地震速報や気象警報などの情報収集, 二次災害の防止, 安全な場所への避難, 避難場所での行動など について考える。
	4 全体交流(グループ交流)と学習のまとめ ・自然災害への備えについて, 必要なこと, 今できていることとそうでないことを交流する。 ・学習をまとめる。

○ (防災ノートを活用する時の) 教師の指導のポイント

- ・防災ノートP7, 10 などには, 岐阜県で起こった自然災害の具体的な被害状況などが記載されている。防災ノートを活用し, 自然災害の恐ろしさや備えの大切さについて考えるきっかけづくりをする。
- ・防災ノートP20には, 自然災害に備えておくべきものが具体的に例示されている。現在行っている備えと比較し, 過不足について考えられるように指導し, 日常生活とつなげる指導をする。

○ 防災ノートの活用により, こんな子どもたちの姿が生まれました! (期待される効果)

- ・阪神・淡路大震災や東日本大震災についての知識はあるが, 岐阜県で過去に起こった自然災害での被害や今後起こり得る可能性について知り, “自分事”として自然災害について考えることができた。
- ・市販の防災バッグなどは準備しているが, 他にも必要なものや準備しておく便利なものがあることに気付き, 早速家庭で提案したり, 実際に準備をしたりすることができた。

○ 生徒の感想(防災ノート活用に関わって)

今日は, 自然災害の恐ろしさについて再認識をしました。私は, 災害と聞くと東日本大震災を思い浮かべるけど, 岐阜県では津波は起こらなくて, どこか他人事だと思っていました。でも, 防災ノートで, 岐阜県でも大きな被害を受けた自然災害があったことや, 今後起こり得る可能性について知り, ちょっと恐くなりました。だからこそ, 防災ノートにある備えておくべきもののリストを活用したいと思ったし, 今日帰って(防災)バッグの中身をお母さんと確認したいなと思いました。

特別の教科 道徳

the morality period

学年	単元等	活用方法
小学校 1年生	「がっこうたんけん」 光文書院P16 「たいせつないのちをまもるために」 光文書院P60	<ul style="list-style-type: none"> ・『小学校1・2・3年生用』P10の「身のまわりの危険を知ろう①」を基に、学校内にある危険なところを知ったり、考えたりするとともに、お世話になっている人を考える時間と関連付けて、「危険だと思うときにはどんな人に伝え、助けてもらおうとよいか」を考えることができる。 ・「わきだしたみず」に関連したコラムであり、命を守る訓練の意味を考えることができる。『小学校1・2・3年生用』を使って身近で起きる可能性のある災害を知ったり、P12「身の守り方」、P13「防災のポイント」を活用して命を守る訓練で行っている活動の意味を考えたりすることができる。
小学校 2年生	「学校たんけん」 光文書院P14 「みんなのためにはたらく」 光文書院P50	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生時の学習を踏まえ、年下の人の「おせわ」をする際に、年下の気持ちを考え思いやったり、学校探検で伝える内容を考えたりするために『小学校1・2・3年生用』P10を参考にすることができる。 ・「わたしたちもしごとをしたい」に関連したコラムであり、災害時の共助や公助について知ることができる。『小学校1・2・3年生用』P16、17を参考にすることができる。
小学校 3年生	「台風の日」 光文書院P158 (付録) 「こまったときは、おたがいさま」 光文書院P164 (付録)	<ul style="list-style-type: none"> ・節度ある行動をとったり、自分の身の回りにおける危険を考えたり、普段からどのような準備が必要かを考えたりする場面で『小学校1・2・3年生用』が参考になる。主人公の心の動きとP8の資料の関連性が高く、活用することができる。 ・震災後のボランティア、避難所での助け合いの様子を題材とした資料であり、『小学校1・2・3年生用』P14の内容が関連している。
小学校 4年生	「神戸のふっこうは、ぼくらの手で」 光村図書P178	<ul style="list-style-type: none"> ・勤労、公共の精神について考える際、『小学校4・5・6年生用』P17やP20、21の内容を関連付けて考えることができる。

小学校 5年生	「自分の身は自分で 守る」 光村図書P78	・節度ある行動や普段からの気構えの大切さを考える際、『小学校4・5・6年生用』P10～16を活用し、災害時の具体的な危険を想定することができる。命を守る訓練の意味や、普段から節度ある生活を送ることの意味を考えることもできる。また、別の時間（特別活動等）に「災害・避難カード」を作成する活動を位置付け、関連させることができる。
小学校 6年生	「「ありがとう」の気 持ちを伝える」 光村図書P202	・二つ目の児童作品に東日本大震災に関する話がある。「ありがとう（感謝）」という言葉を通して、自分をとりまく存在を振り返る際に、『小学校4・5・6年生用』P19の被災された方の話を関連付けることができる。
中学校 1年生	「火の島」 東京書籍P132	・自然の美しさや力を感じ、人の力を超えたものについて考える中で、『中学生用』のP1～10までを活用し、自然の脅威についても考えを広げることができる。また、災害を通して自然と自分の生活との関わりを考えることができる。
中学校 2年生	「今度は私の番だ」 東京書籍P114 「田老の生徒が伝えたもの」 東京書籍P170 (付録)	・東日本大震災からの復興に携わったスポーツ選手の話と『中学生用』P26, 27の「災害復旧に携わった人の話」を関連付け、社会参画や社会連帯について考えることができる。 ・東日本大震災の避難の実話である。自主的に考え、判断し行動することの大切さや日ごろからの準備の大切さ、心構えの重要性を考えることができる。その際『中学生用』P11～21の内容が具体例として活用できる。また、別の時間（特別活動等）に「災害・避難カード」を作成する活動を位置付け、関連させることができる。
中学校 3年生	「社会からの無言の 賞賛を感じる感性」 東京書籍P162	・誰かがやらなければならない仕事を通して自分と社会とのかかわりを見つめ直すときに、『中学生用』P21～27の共助や公助に関する内容を関連付け、災害時における社会参画や社会連帯について考えることができる。

小学校
4・5・6年生用
P20, 21

関係機関のはたらき
小学校 第4学年 特別の教科 道徳
「神戸のふっこうは、ぼくらの手で」

- (1) ねらい 周りの様子のことを考えて働くことの大切さに気づき、みんなのために働こうとする態度を育てる。
 (2) 評価の視点 みんなのために働くことの大変さや心地よさを感じながら、働くことの大切さを考えている。
 (3) 学習展開 (1/1)

過程	学習活動 (◆は、「みんなで学ぶ防災・減災(防災ノート)」を活用する場面を示している。)
導入	1 教材の内容に引き込むために、写真等を使って導入をする。 ・うわ、建物がぐちゃぐちゃだ。大きな地震が起こったのかな。 ◆P20～21を提示し、多くの関係機関の人々のはたらきのおかげで、助けられていることを知る。 ・いろいろな人のおかげで助けられているのだ。 ・ほかにもいるのかな。
展開	2 教材を読み、道徳的価値について考える。 ○感想を問う。 ・学校の先生や小さな子など、自分から働いていてすごいな。 ・宮本くんも、自分から進んで働いていてすごい。 ○「いろいろな人が仕事を手伝う様子を見た宮本くんは、どんな気持ちになったでしょうか。」 ・ぼくたちも手伝った方がいいのかな。 ・でも、どうやって手伝うといいのかな。自分にできるのかな。 ◎「宮本くんは、どんな思いで熊の絵のかいてある本を探したのでしょうか。」 ・これなら僕にもできそうだ。 ・あの本があれば、あの子も泣き止んでくれるはずだ。 ○「『君たちがいるかぎり、神戸はりっぴに立ち直る。』の言葉を聞いて、宮本くんは自分のやったことをどう感じているのでしょうか。」 ・ぼくにも、みんなのためにできることがあるんだ。
終末	3 本時の学習を振り返る。 ○「今日学んだことを生かして、働くことに対する考え方をふりかえろう。」
○ (防災ノートを活用する時の) 教師の指導のポイント ・「災害が起きた時に、どういう人が働いているのだろうか。」と投げかけ、最初に考えさせたところで、この教材を提示するとともに、「これだけなのかな?」と、他にも働いている人がいるのかもしれないという見方がもてるようにする。 ・社会科の学習において、事前に活用しておく。	
○ 防災ノートの活用により、こんな子どもたちの姿が生まれました! (期待される効果) ・災害が起きた時に、どのような人々が働いているのかを知るとともに、関係機関の方以外にもいるのだろうかという問題意識をもって教材に向かい、道徳的価値について考えることができた。	
○ 児童の感想 (防災ノート活用に関わって) ・災害の時には、自衛隊や警察などの人がやっているのは、知っていたけど、身近な人までがいろんなことをしていることにびっくりした。だから、自分にもできることを考えてやってみたい。	

小学校
4・5・6年生用
P10～16

自分で考え、行動しよう

小学校 第5学年 特別の教科 道徳

「自分の身は自分で守る」

- (1) ねらい 安全に生活するためには、自分でできることがあることに気付き、よく考えて行動しようとする態度を育てる。
- (2) 評価の視点 安全のために自分ができることについて、日常生活や災害時のことを想起しながら考えている。
- (3) 学習展開 (1/1)

過程	学習活動 (◆は、「みんなで学ぶ防災・減災(防災ノート)」を活用する場面を示している。)
導入	1 学校での命を守る訓練ではどのような思いで取り組んでいるか確かめる。 ・もし地震が起きたら、どう避難するか真剣に考えているよ。
展開	2 教材を読み、道徳的価値について考える。 ○感想を問う。 ・最初は意味があるのかなと思っていたけど、自分の身は自分で守ることを本気で考え始めたばかりはすごいと思った。 ◎「自分の身は自分で守る」とは、どんな時に、どのような気持ちで動くことなのか。 ・地震が起きたときは、命を守ろうとすぐに机の下にもぐること。 ・自転車に乗るときは、事故にあっても命を守るができるように、ヘルメットをかぶること。 ・いつ災害があっても生活できるように、避難グッズをそろえておくこと。 ○実際にどんなことができるのか、災害に目を向けて考えてみよう。 ◆P10～16を見て、事前にできることがたくさんあることに気付けるようにする。 ・社会でも習ったけれど、どこが危険なのかを知っておくことも大切なんだ。
終末	3 本時の学習を振り返る。 ○あなたは「自分の身は自分で守る」ことが、どれだけできているでしょうか。また、今後はどのようなことをしていきたいですか。
○ (防災ノートを活用する時の) 教師の指導のポイント ・いろいろな場面における事前の準備に着目させるために、まず日ごろから備えていることは何かを考えるようにした上で、防災ノートを見るようにする。	
○ 防災ノートの活用により、こんな子どもたちの姿が生まれました！ (期待される効果) ・4年生の社会科で学習したこととつなげて発言する子がおり、4年生での学習内容を深める効果があるとともに、日ごろの生活を見直すきっかけになった。	
○ 児童の感想 (防災ノート活用に関わって) ・自分の命は自分で守ることは、よく言われるけど、なかなかできていないことが多い。特に、家族はいろいろ準備しているけど、自分はやっていないので、自分でもできるようにしたい。	

被災された方のお話

小学校 第6学年 特別の教科 道徳
「ありがとう」の気持ちを伝える

- (1) ねらい 自分の生活は、多くの支えて成り立っていることに気付き、それらに感謝したり、応えたりしようとする心情を育てる。
- (2) 評価の視点 自分の生活を振り返り、支えているものに感謝し、それに応えようと考えている。
- (3) 学習展開 (1/1)

過程	学習活動 (◆は、「みんなで学ぶ防災・減災(防災ノート)」を活用する場面を示している。)
導入	1 お世話になっているが、なかなかお礼が言えない相手を思い起こす。 ・お母さんや家族には、恥ずかしくてなかなか言えないな。
展開	2 教材を読み、道徳的価値について考える。 ○感想を問う。 ・お母さんに「ありがとう」が言えないのは同じだな。だって恥ずかしいし、当たり前だと思っているから。 ◎「人への感謝はよく分かるが、毎日の生活を支えてくれているものへの感謝については、みんなはどう思いますか。」 ・確かに、電気や水などは、当たり前にあると思っていただけ、それがなかったらとても大変な生活で苦しむと思うから、感謝というか、大切にすることが大事だと思った。 ○被災された方は、どんな思いをもっているのかを知る。 ◆P19を見て、被災された方の思いに気付くことができる。 ・こんな怖い思いをしていたんだ。でも、そんなときでも助けてくれる人がいるってすごいな。自分にはなかなかできないな。
終末	3 本時の学習を振り返る。 ○あなたは、もうすぐ小学校を卒業しますが、今だからこそ、どんな人に感謝の思いを伝えたいですか。
○ (防災ノートを活用する時の) 教師の指導のポイント ・防災ノートに書かれていることは、「非日常の場面」であるので、じっくりと読み聞かせをして、被災された方の思いに浸れるようにしたい。	
○ 防災ノートの活用により、こんな子どもたちの姿が生まれました！(期待される効果) ・災害時のつらさを実感し、やや重苦しい雰囲気にはなったが、「そんな方が助かったのはどんな思いをもつ人がいたからなのかな。」と、助け合おうとする人の思いに気付くようにしたところ、「だからこそ、感謝の思いが強いかもしれない。」という発言につながった。	
○ 児童の感想(防災ノート活用に関わって) ・ぼくは、被災したことはないから、そんなすごい場面はないけど、かぜを引いたり、熱を出したりしたとき、いつも心配してくれたお母さんに感謝したいです。でも、ありがとうと言うのはやっぱり恥ずかしいです。なので、これからは、あまり心配かけないように、生活したいです。	

自分で考え、行動しよう

～地震から命を守るには～

中学校 第2学年 特別の教科 道徳

「田老の生徒が伝えたもの」

- (1) ねらい 生徒のことを誇りに思う校長先生の気持ちに共感することを通して、安全に配慮した調和のある生活を心がけていこうとする態度を育てる。
- (2) 評価の視点 自主的に考え、判断し行動することの大切さや日ごろからの準備の大切さ、心構えの重要性を考えられている。
- (3) 学習展開 (1/2)

過程	学習活動 (◆は、「みんなで学ぶ防災・減災(防災ノート)」を活用する場面を示している。)
導入	<p>1 東日本大震災での津波、田老の町の様子について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 過去に津波を受けて多くの被害者が出たことで、10mの堤防を築き「津波防災の町」を宣言した田老町だが、16mの津波が町を襲い、181名の犠牲者がでた。
展開	<p>2 教材を読み、道徳的価値について考える。</p> <p>○避難誘導をしたり、歩行がままならない人たちを背負ったりしている生徒たちは、どのようなことを考えていたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなが無事に避難できるように何とかしたい。 津波が迫ってきてこわいけれど、自分ができるところをしよう。 この人を置いていくわけにはいかない。 <p>◎校長先生は、田老第一中学校の生徒のどのようなところを誇りに思っているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分で判断し、的確な行動を取ることができたところ。 自分の身の安全も確保しながら、更に周りの人のことを考えて行動していたところ。
終末	<p>3 学んだことを生かして、自分を見つめる。</p> <p>○マニュアルどおりにいかないときに的確な判断を下すには、どのようなことが必要だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の生活の中で、安全な行動を取るためには何が必要か常に考えること。 避難訓練で最悪のことを想像しておくこと。 <p>◆P12, 13の「地震から命を守るには？」より、学校や家庭内での危険箇所をDIG(災害図上訓練)を通して学習する。</p> <p>◆P20の「家庭での備え」より、防災・減災の準備について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 窓ガラスや家具が倒れてくることが予想される。 普段から危険箇所を把握しておくことが大切であると感じた。 <p>(4 次時：特別活動の時間 「災害・避難カード」を作成し、防災の意識を高める。)</p>
<p>○(防災ノートを活用する時の)教師の指導のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 家具の転倒防止、ガラスの飛散といった危険性を小さくするための備えや、災害が起こったときどのような行動をとるべきなのかイメージさせる。 安全の確保のためにどんなことに注意するとよいか生徒間で交流させ、考えを広めたり深めたりできるようにする。 	
<p>○防災ノートの活用により、こんな子どもたちの姿が生まれました！(期待される効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分で判断して行動することの大切さだけでなく、事前に準備をすることや被害を想定する事で、減災につながるという意識が高まった。 	
<p>○児童・生徒の感想(防災ノート活用に関わって)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の家の中や住んでいる地区を改めて見てみると、危険な箇所がたくさんあることが分かった。日ごろからの備えが自分や周りの人の命を守ることに繋がることに気付くことができたので、さっそく家の人と話し合っ、防災対策をしたいと思いました。 	



特別活動

special activities

学年	単元等	活用方法
<p>※特別活動の年間指導計画は、各学校における児童生徒や家庭、地域の実態に応じて作成されるため、ここでは実施学年を具体的に設定することが難しい。また、内容によっては、総合的な学習の時間で例示したものを、特別活動のねらいから実施することも可能である。よって、ここでは下記のとおり例を示す。</p> <p><学 年> → 小学校第1学年～中学校第3学年 <単元名> → 題材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動（2）日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。 ・学校行事 		
	<p>題材例 「命を守る訓練」 （シェイクアウト訓練を含む） 「災害図上訓練」 「地域安全マップの作成と活用」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身近に起こった災害について知るために、『低学年用P1～8，高学年用のP1～9，中学生用P1～10』を参照する。 ・DIGの中で、自分の命を守るためにできることを考える際に、『低学年用P9～13，高学年用のP10～15，中学生用P11～18』を参照する。また、具体的な避難行動について考える際に、『災害・避難カード』を活用する。

小学校
1・2・3年生用
P1～13

身の回りの危険を知ろう

小学校 第1・2学年 特別活動 学級活動(2)ウ 「地震から自分の命を自分で守る」

- (1) ねらい 地震が起きた時を想定して、身を守る体験や教室など身の回りの危険を探す活動を通して、地震が起きた時、何が危険かを理解し、身を守る行動を身に付けることができる。
- (2) 評価規準 地震発生時の学校や家庭、通学路の危険から身を守る行動の仕方を理解している。【知識・技能】
- (3) 学習展開 (1/1)

過程	学習活動 (◆は、「みんなで学ぶ防災・減災(防災ノート)」を活用する場面を示している。)
導入	1 災害を知る。 ◆防災ノートP1～7 ・地震、大雨、火山噴火の災害がある。 ・奥飛騨温泉郷でも、たびたび起きている地震から身を守ることを学習する。
展開	課題 地震が起きたら、どうやって自分を守ればよいだらう。 2 学校生活のいろいろな場面での身の守り方を知る。 ◆防災ノートP12～13 ・教室にいる時 ・体育館にいる時 ・廊下にいる時 ・グラウンドにいる時
まとめ	3 登下校時や家にいる時の身の守り方を知る。 4 身のまわりの危険を考える。 ◆防災ノートP10～11 ・イラストを見て、地震が起きた時、危険な箇所を探す。 ・イラストの教室、体育館、家、通学路と自分の教室を比べ、相違点を記入する。 ・自分の教室、体育館、家、通学路での身の守り方を考える。



○ (防災ノートを活用する時の) 教師の指導のポイント

防災ノートのイラストから、大きく揺れた時の危険について理解できるようにする。自分事として実効性ある学習にするために、イラストに学校や通学路、家の様子を描き加え、揺れた時の危険を考える場を位置付ける。防災ノートのイラストを利用したミニDIG訓練を行うなど、実際の生活の中で、地震時の「倒れる」「落ちる」「崩れる」「割れる」を予想し、自分の身を守る行動を考えることも大切である。

○ 防災ノートの活用により、こんな子どもたちの姿が生まれました！(期待される効果)

地震発生時、一般的に想定される危険と身の守り方を理解した後、防災ノートのイラストと、実際の教室や体育館、家の様子を比べ、「教室の上の方に窓ガラスがあるので…。」「僕の寝ている部屋には、棚があってね、だから…。」「私の家では、タンスを固定しているんで…。」と、自分の生活を振り返りながら、危険箇所や揺れが起きた時の身の守り方を考えるようになった。

○ 児童の感想(防災ノート活用に関わって)

地震が起きると、どんなところが危ないのかや、どんな準備をするとよいか分かりました。学校だけでなく、家で寝る部屋には危ないところはないか考えました。今度は、家の防災バックを見て、お母さんと一緒に中身を確認しておきたいと思いました。

小学校

1・2・3年生用

P7

火山が噴火すると、どうなるの？

小学校 第3学年 特別活動 学校行事(3)

「焼岳噴火想定訓練」

- (1) ねらい 校区にある焼岳が活火山であることを理解したり、噴火レベル3-②へ上がった時の行動を知ったりする活動を通して、自分の命を守る行動を考え、地域防災訓練等で実践することができる。
- (2) 評価規準 地域防災訓練で、自分の命を守る行動を実践している。【思考・判断・表現】
- (3) 学習展開 (1/1)

過程	学習活動 (◆は、「みんなで学ぶ防災・減災(防災ノート)」を活用する場面を示している。)
導入	1 火山噴火災害を知る。 ◆防災ノートP7 ・7年前、御嶽山で火山噴火が起きた。その時の被害を知る。 ・焼岳は、御嶽山と同じで、噴火が起きる山である。
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 課題 焼岳が噴火したらどう行動したらよいだらう。 </div> 2 噴火レベルと避難行動を知る。 ・レベル3-①は、自宅待機。 ・レベル3-②は、緊急車両に乗って〇〇小まで避難する。 3 地域防災訓練 「ただ今、焼岳の噴火警戒レベル③-2の警報が発令されました。高齢者等、要配慮者の避難準備を始めてください。」 「焼岳の噴火警戒レベルが4に引き上げられました。住民の皆さんは避難をしてください。」 ・各自ヘルメット着用、防災バックを持って、緊急車両に乗り込む。
まとめ	4 振り返り ・避難について、全校で振り返り、消防署の方から指導を受ける。 ・各自、自分の行動について振り返る。



○ (防災ノートを活用する時の) 教師の指導のポイント

学校行事「命を守る訓練」の事前学習に防災ノートを活用し、自分の命を守る行動を考える場を位置付ける。児童は、活火山の知識が少ないため、防災ノートを読み、2014年に突然噴火した御嶽山を例に、火山の噴火についての知識を得る。噴火は1000年、10000年単位の活動であるため、普段の生活の中で危機感をもちにくい、ひとたび噴火すれば、他の災害より命の危険が迫ってくることを理解できるようにする。

○ 防災ノートの活用により、こんな子どもたちの姿が生まれました！(期待される効果)

焼岳が噴火すると火砕流が発生することを知り、自分の安全な避難場所を確認することができた。学校にいる時は〇〇へ、家にいるときは△△へ、というように、住んでいる地区によって避難場所が違うことも初めて知った。避難後は、避難所で生活することになるため、防災ノートを参考に避難バッグの持ち物を真剣に準備するようになった。

○ 児童の感想(防災ノート活用に関わって)

今日の訓練では、静かに放送を聞き、すばやくヘルメットをかぶり緊急車両に乗ることができました。噴火警戒レベル3-①から3-②に急が変わるかもしれないので、落ち着いて行動したいです。その時は、この訓練を思い出して行動したいです。

- (1) ねらい 自分が住んでいる地区の地図に、川や道路、丈夫で高い建物を書き込んだり、ハザードマップを見て、土砂災害特別警戒区域や土砂災害警戒区域を書き加えたりする活動を通して、大雨時の土砂災害を予想し、自分の命を守る行動を身に付けることができる。
- (2) 評価規準 土砂災害を予想し、自分の命を守る行動の仕方を理解している。【知識・技能】
- (3) 学習展開 (1/2)

過程	学習活動 (◆は、「みんなで学ぶ防災・減災(防災ノート)」を活用する場面を示している。)
導入	1 各自が調査した自分の地区の危険箇所について交流する。 ◆防災ノートP13 ・どの場所が危険か考える。
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 課題 命を守るためにどんな行動をとるとよいだろう。 </div> 2 地区の地図に川や道路を書き込む。 3 ハザードマップを見ながら、土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域に色を塗る。 4 地区の頑丈な高い建物と避難場所、避難所にシールで印を付ける。 5 土砂災害が起こりそうな時の行動を考える。
まとめ	◆防災ノートP14 ・地区の避難場所に避難しても土砂災害時は安全でない。 ・道が通れなくなるので、早目に避難所まで避難しなければいけない。 ・安全な避難所は遠いので、近くの〇〇ホテルへ避難するのもよい。
○ (防災ノートを活用する時の) 教師の指導のポイント 大雨の際、自分たちが住んでいる地区のどこが危険かを考えるとき、防災ノートを活用し、川や山の近くが危険であることを確認するとともに、ハザードマップも活用できることを伝える。その上で、ハザードマップに危険区域を視覚的に示していく。そして、地区の避難場所に指定されていても、大雨の際の避難場所に適していないことや、避難所へ行く道路が危険になることなどについて多面的に捉え、どこへ避難するとよいかについて考えることができるようにする。	
○ 防災ノートの活用により、こんな子どもたちの姿が生まれました！(期待される効果) ハザードマップの意味と使い方を知り、自分が住んでいる地域が危険であることに気付くことができた。そして、自分はどこに避難するのかを確実に理解することができた。また、防災ノートを読み、大雨の時は、災害が起きる前に避難しないと道路が使えなくなることも理解できた。避難場所と避難所の違いを知り、大雨時、地震時の災害を予期して、命を守る行動を考えることができた。	
○ 児童の感想(防災ノート活用に関わって) ・僕の住んでいる地区は、ハザードマップを見ると、地区全体が土砂災害警戒区域です。だから、大雨の時は、地区の避難場所に行っても危ないことが分かりました。丈夫で高い建物もありません。道路も土砂災害警戒区域なので、早目に9km先の避難所まで避難したいと思います。 ・私の家から避難所は遠いです。土砂災害危険区域を通過して避難すると危険なので、近くの〇〇さんの家や、「〇〇ホテル」に垂直避難させてもらおうと思います。	



小学校
4・5・6年生用
P9, 15

岐阜県ではどんな火山噴火が起こったの？

小学校 第4・5・6学年 特別活動 学級活動(2)ウ 「安全で楽しく登山をするためには」

- (1) ねらい 山岳救助隊の方から登山の方法やマナーについて話を聞いたり、「防災ノート」を読んで活火山について理解したりする活動を通して、安全で楽しい登山の方法について理解することができる。
- (2) 評価規準 乗鞍岳・天蓋山登山に向けて、安全で楽しい登山の方法を理解している。【知識・技能】
- (3) 学習展開 (1/1)

過程	学習活動 (◆は、「みんなで学ぶ防災・減災(防災ノート)」を活用する場面を示している。)
導入	1 乗鞍岳の写真を見ながら、乗鞍岳の概要を知り、登山への意欲を高める。
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 課題 安全に楽しく乗鞍岳登山をするためには、どんな行動が必要だろうか。 </div> 2 登山のマナーを知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・すれ違う人とあいさつをする。⇒遭難時の情報になる。 ・草花、虫、石を採らない。⇒自然は再生が難しい。
	3 安全な歩き方を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・登りの人優先で道を使う。 (登る方に体力がいる。登る人の歩くペースをくずさない。) ・石を落とさない。 (落石を目撃したら下の人に「落(らく)」と伝える。)
	4 乗鞍岳は活火山であることを知る。 ◆防災ノートP9 <ul style="list-style-type: none"> ・乗鞍岳は、岐阜県の5つの活火山うちの1つである。 ・御嶽山は、8年前に噴火し、63名の死者・行方不明者の大惨事となった。 ・噴火警戒レベルには5段階ある。 ・突然、噴火した時の身の守り方がある。
	5 乗鞍岳登山を安全にするために、自分は、どのような行動をとるのかまとめる。 ◆防災ノートP15
まとめ	



○(防災ノートを活用する時の)教師の指導のポイント

事前学習時、防災ノートを読み、登山する乗鞍岳は活火山であることを伝える。そして「近年、乗鞍岳は噴火警戒レベル1が続いており、登山をするに当たり、必要以上に噴火を恐れる必要はない。だが、岐阜県内の5つの活火山の1つであり、突然噴火する可能性も0ではない。」ということを理解できるようにする。防災ノートに紹介されている気象庁のホームページ「乗鞍岳の噴火警戒レベル」も参考にし、万が一、登山中に噴火した場合、どのような行動をとると自分の命を守ることができるのか、一人一人で考える場を位置付ける。

○ 防災ノートの活用により、こんな子どもたちの姿が生まれました！(期待される効果)

乗鞍岳だけでなく、校区内にある焼岳やアカンダナ山に目を向けるようになった。火山の知識を総合的な学習の時間の探究課題と結び付けて考えることができるようになった。

「数日の大雨で白谷砂防に土砂が埋まるのは、アカンダナ山周辺に火山灰が積もっていて、白くて脆い土砂がどんどん崩れてくるからだ。砂防が4基あっても土砂災害を防ぎきることはできないだろう。」と感想をもつことができた。

○ 児童の感想(防災ノート活用に関わって)

夏休みに登山をする乗鞍岳が、活火山であることを初めて知った。もし、登山中に噴火したら怖いと思う。噴石からは逃げようがないので、大きな岩かげに隠れ、リュックサックで頭を守り、自分で自分の命を守る行動をとりたいと思う。

火山噴火から命を守るには？

小学校 第6学年 特別活動 学校行事(3) 「焼岳噴火警戒レベル3-②が発令されたら」

- (1) ねらい 火山の噴火警戒レベルの段階と、それに応じた行動の仕方を知ることを通して、自分の命を守る行動を決め、地域防災訓練等で実践することができる。
- (2) 評価規準 地域防災訓練で、自分の命を守る行動を実践している。【思考・判断・表現】
- (3) 学習展開 (1/1)

過程	学習活動 (◆は、「みんなで学ぶ防災・減災(防災ノート)」を活用する場面を示している。)
導入	1 火山の噴火警戒レベルについて確認する。 ◆防災ノートP15 ・気象庁ホームページ「焼岳の噴火警戒レベル」
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 課題 焼岳の噴火警戒レベル3-②が発令された時、どのように行動するとよいか。 </div> 2 噴火警戒レベル3-②が発令されたらどのような行動をとるか考える。 ・レベル3-②なら、居住地近くまで、噴石が飛散する危険がある。 ・その後、警戒レベルが4になることも想定できる。レベル4になり、火砕流や溶岩流が発生すると、10分程度で学校まで到着するから避難が間に合わない。 ・レベル3-②の段階で、〇〇小まで先生方の緊急車両で避難しなければいけない。 ・避難所で生活をしなければいけなくなるので、自分の避難バックも持って行くとよい。 3 地域防災訓練に参加する。 「ただ今、焼岳の噴火警戒レベル③-2の警報が発令されました。高齢者等、要配慮者の避難準備を始めてください。」 「焼岳の噴火警戒レベルが4に引き上げられました。住民の皆さんは避難をしてください。」 ・各自ヘルメット着用，防災バックを持って，緊急車両に乗り込む。
まとめ	4 振り返りをする。 ・避難について、全校で振り返り，消防署の方から指導を受ける。 ・各自，自分の行動について振り返る。
○ (防災ノートを活用する時の) 教師の指導のポイント 学校行事「命を守る訓練」の事前学習に防災ノートを活用し，自分の命を守る行動を考える場を位置付ける。防災ノートに，気象庁ホームページ「噴火警戒レベル」や「火山を知る本」が紹介されているため，児童が自ら噴火から身を守るための情報を得ることができる。その上で，理科の単元「大地のつくりと変化」において，火山噴火が起きた時，どのような災害が起きるのかを学習し，火砕流の流れ方の知識を生かした避難行動について考えることができるようにする。	
○ 防災ノートの活用により，こんな子どもたちの姿が生まれました！(期待される効果) 岐阜県にある活火山5つのうち，自分たちの身近なところに3つもあることを知った。防災ノートで紹介されている気象庁のホームページのリーフレットや「火山を知る本」を進んで読み，噴火警戒レベルと身の守り方(火砕流の流れ方，火砕流を避けた避難行動が必要なこと等)について理解を深めることができた。	
○ 児童の感想(防災ノート活用に関わって) 僕たちが住んでいるところの近くには，活火山が3つもあることが分かりました。地域防災訓練では，防災無線放送や校内放送をしっかりと聞いてから行動できました。自分が避難する車には乗れませんでした，防災無線放送で警戒レベルが4に上がったと言ったので，「レベル4なら学校にも家にも火砕流が来るかもしれない。すぐに避難しないと死んでしまう。」と思い，別の車に乗り込みました。あせらず，冷静に避難することができました。	

総合的な学習の時間 *the period for integrated studies*

学年	単元等	活用方法
<p>※総合的な学習の時間においては、学習指導要領の第1の目標と、学校教育目標を踏まえて、総合的な学習の時間の「目標」「育成する資質・能力」「探究課題」等を各学校において定める。よって、学年や単元等を具体的に例示することが難しいため、下記のとおり例を示す。</p> <p><学 年> →小学校第3学年～中学校第3学年 <単元名> →探究課題の例</p>		
	<p><u>探究課題の例①</u> 「防災のための安全 な町づくりとその取 組」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 私たちの町と自然 災害 ・ 地域防災訓練への 参加（親子） ・ 避難所生活につい て <p><u>探究課題の例②</u> 「職業体験やボラン ティア活動」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域で発生した過去の災害について知る際に、『低学年用P1～8，高学年用のP1～9，中学生用P1～10』を参照する。 ・ 地域防災訓練に参加する前や参加した後に、『低学年用P9～15，高学年用のP10～18，中学生用P11～21』を参照する。また、具体的な避難行動について考える際に、『災害・避難カード』を活用する。 ・ 避難所運営について学ぶ際に、『低学年用P14，高学年用のP16，17，中学生用P20，21』を参照する。 ・ 関係機関の働きや災害ボランティアについて調べる際に、『低学年用P16，17，高学年用のP20，21，中学生用P22～27』を参照する。

災害後の生活はどうなるの？

小学校 第4学年 総合的な学習の時間

「地震から命を自分で守る」

- (1) ねらい 地域の避難所や防災倉庫を見学することを通して、避難所には生活必需品が全てあるわけではないことや、避難所で生活する上での課題に気づき、日頃から一人一人が災害に備える必要があることを見いだすことができる。
- (2) 評価規準 避難所生活を想像し、自分で備えることの必要性を見いだしている。【思考・判断・表現】
- (3) 学習展開 (35/70)

過程	学習活動 (◆は、「みんなで学ぶ防災・減災(防災ノート)」を活用する場面を示している。)
導入	1 避難所の意味や役割を知る。 ◆防災ノートP16, 17
	課題 避難所へ避難すると安心して生活ができるのだろうか。
展開	2 避難所を見学する。 ・ロビーで寝る。 ・パーテーションと敷物が少しだけある。
	3 防災倉庫を見学する。 ・パーテーションと敷物と水を入れるタンクが少しある。 ・和風リゾットが250食、味噌汁が500食備えてある。 ・毛布が50枚ある。
	4 避難所や防災倉庫の様子、備蓄品について、つかんだ事実を整理する。
まとめ	◆防災ノートP17 5 自分が避難することを想定して避難所の課題を見いだす。 ・ロビーの床そのままでは眠れない。 ・地域の人みんなが避難したら、食料は足りるだろうか。 ・パーテーションが少ない。 ・寒くても、上着や布団はない。 ・普段、自分が使うものはない。 ・ペットは連れてきてもいいのかな。



○ (防災ノートを活用する時の) 教師の指導のポイント

見学前の事前学習において、防災ノートを読み、避難所はどういう場所なのかを理解できるようにする。その上で、避難所と防災倉庫を見学し、市が用意している備蓄品と防災ノートで示されている必需品を比較する。

○ 防災ノートの活用により、こんな子どもたちの姿が生まれました！(期待される効果)

防災ノートに示されている生活に必要な物と、地域の避難所や防災倉庫に備蓄されている物を比較し、必要な物は何かを考えた。そして、避難所には、一人一人に合わせて必要な物が置いてあるわけではないことを知り、人任せではなく、一人一人が自分で備えをしておかなければいけないと考えるようになった。

○ 児童の感想(防災ノート活用に関わって)

防災ノートに載っていた避難所は体育館だけど、奥飛騨の避難所は奥飛騨総合センターのロビーで、床が体育館とは違いました。床に敷くことができる物も少ししかなく、段ボールのパーテーションも少しでした。避難所では、プライバシーを守ることができないと思いました。食料はリゾットと味噌汁が置いてあったけど、地域全員分はないと思いました。防災倉庫の中は、想像していたより物が少なかったです。

小学校
4・5・6年生用
P9, 15

岐阜県ではどんな火山噴火が起こったの？

小学校 第4・5学年 総合的な学習の時間 「火山噴火から命を守る」

- (1) ねらい 岐阜県の火山と噴火災害の実際を知ることを通して、火山噴火災害から命を守るために何をすればよいか、また、そのための備えとして何が必要かを考えることができる。
- (2) 評価規準 火山噴火災害から命を守るための行動や備えを考えることができている。【思考・判断・表現】
- (3) 学習展開 (1/7)

過程	学習活動 (◆は、「みんなで学ぶ防災・減災(防災ノート)」を活用する場面を示している。)
導入	1 岐阜県の火山について知る。 乗鞍自然教室(乗鞍岳畳平から大黒岳登山)の事前学習として、岐阜県の火山について調べる。 ◆防災ノートP9から、岐阜県には5つの活火山があり、噴火災害が起こっていることを知る。
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">課題 火山噴火の災害から命を守るために、どんな備えが必要だろうか。</div> 2 見学地である乗鞍岳やその他4つの活火山について調べる。 ・Google マップを使って、岐阜県における位置や山頂の様子が分かる写真を見る。 3 御嶽山の噴火災害について調べる。 ◆防災ノートP9の「マメ知識」を読み、最近でも死者を出すような災害があったことをつかむ。
	4 乗鞍自然教室に向けてどんな備えをしていけばよいかを考える。 ◆防災ノートP15を読み、気象庁のHPで調べる。 ・乗鞍岳は現在のところ噴火レベルは低いので安心はできるが、噴火はいつ起こるとも限らないので、そのためにどんな備えをしていけばよいだろうか。 ・ヘルメットを持って行った方がいいかな。 ・石が降ってきても大丈夫な、頑丈な場所はどこかな。
まとめ	5 まとめ。 ・乗鞍自然教室に向けて、事前の準備、当日の心の準備をする。



○ (防災ノートを活用する時の) 教師の指導のポイント

P9の「岐阜県ではどんな火山噴火が起こったの？」では、岐阜県のどの地方に多いのか、また、今度行く乗鞍畳平はどの火山に近いのかを地図上で確認するとともに、Google マップの機能を使って、御嶽山の山頂の様子や焼岳で水蒸気ガスが噴き出す様子を写真で見ること、それらの山が「火山」であることに気付くことができるようにする。

P15の「火山噴火から命を守るには？」では、乗鞍岳は現段階では噴火レベルは低く、安心してよいが、それでも災害が起こらないとは限らないので、そのためどんな備えをすればよいかを考えさせる。

○ 防災ノートの活用により、こんな子どもたちの姿が生まれました！(期待される効果)

乗鞍岳は活火山の一つであることや、避難のための備えを日頃から行うことで、さらに安全に生活できることを理解し、防災ノートをもとに、自分にできることは何かを考え、準備していきたいと考えることができた。

○ 児童の感想(防災ノート活用に関わって)

- ・乗鞍自然教室はとても楽しみだけど、火山噴火が起こるかもしれないので、ヘルメットを持っていきたいです。
- ・岐阜県には5つも活火山があることを知って驚きました。今度、自然教室に行った時にはどこにあるのかを見てきたいです。
- ・御嶽山の噴火はとても怖いと思いました。命を守るために、準備をしっかりとしていきたいです。

自分の部屋は大丈夫？

中学校 第1学年 総合的な学習の時間

「自己と地域を知る」

- (1) ねらい 自分の部屋の地震に対する安全性について交流し合う活動を通して、それぞれの部屋の危険箇所に気付き、より安全を確保するために必要な対策を考えることができる。
- (2) 評価規準 それぞれの部屋の危険箇所に気付き、それに応じて安全を確保するために必要な対策を考えることができる。【思考・判断・表現】
- (3) 学習展開 (1/20)

過程	学習活動 (◆は、「みんなで学ぶ防災・減災(防災ノート)」を活用する場面を示している。)
導入	1 地震が発生し、何秒後に部屋の家具が倒れる可能性があるのか予想する。
展開	2 地震発生から家具が倒れるまでの映像を見る。 ・小さな揺れを感じてから10秒ほどで大きな本棚が倒れてきた。 ・揺れが止んだと思ったらすぐ大きな揺れが起きていた。
	3 課題提起する。 自分の部屋は安全だろうか。
	課題 自分の部屋にいる時に地震が発生したら、自分の命は守れるだろうか。
まとめ	4 自分の部屋の間取りを簡単に描き、地震で物が倒れた時にどこに倒れるのか赤ペンで描くことで、危険箇所と安全箇所を明らかにする。 ・ベッドが窓際にあるからガラスが割れた時危険だ。 ・本棚が倒れてくるかもしれない。 ・勉強机の下は安全だろう。
	5 描いた図をもとに仲間と交流する。 ・天井に付いている照明器具も危ないな。 ・家具で出入口を塞がれると大変だ。
	6 家に潜む危険について知る。◆防災ノートP12, 13 ・テレビは固定していないから飛んでくるかもしれない。 ・イラストのように自分の家で安全な部屋はどこだろう。 ・火事で亡くなる人よりも建物の下敷きになって亡くなる人の方が多いことに驚いた。 ・写真に載っている体育館のように天井から物が落ちてくるかもしれない。
	7 地震発生時に安全を確保するためにどんな対策が必要か考える。 ・部屋の間取りを新しく考えた。どの場所で地震が起きても身を守れる安全地帯を作らないといけない。そのためには、家具の配置を変えて倒れたり中身が飛び出したりしても安全を確保するとよいと思う。 ・家具を固定したり、窓ガラスに飛散防止フィルムを貼ったりできているか確認する。できていなければ家族と相談して対策する。 ・落下物に備えてルームシューズを履く。

○ (防災ノートを活用する時の) 教師の指導のポイント

防災ノートP12, 13のイラストや写真、内容を手掛かりにして、自宅の部屋にある危険箇所やとるべき対策について考えるように投げかける。

○ 防災ノートの活用により、こんな子どもたちの姿が生まれました！(期待される効果)

地震から身を守ることについては、地震後の行動をイメージする生徒が多かったが、この防災ノートを活用して考えることで、事前対策の大切さに気付くことができた。

○ 児童・生徒の感想(防災ノート活用に関わって)

家具の配置を考えることも防災につながるようになることが分かりました。今回は自分の部屋だったけれど、リビングにも家具が多くあるので、家族でも考えてみたいと思いました。